

## 「日本語初期集中指導教室」の開設について

### 1. 設置の目的

来日または帰国直後の日本語指導を必要とする児童・生徒は、文化やルール等が異なる日本の学校に転入し、戸惑いや不安を抱えながら登校している。一方、学校では、児童・生徒の日本語レベル等が分からない状況で受入を行っている。また、今後の当該児童・生徒の増加に、指導員等の増員のみで対応することは、人材や財源の確保という面から困難となることが予想される。

今後の当該児童・生徒の増加に対応できる、持続可能な日本語指導体制等を構築するため、「初期集中指導教室」を開設する。教室では、あいさつや意思表示、日本の学校のルールやマナー等を指導するとともに保護者の相談等を行う。児童・生徒、保護者への支援を充実するとともに、学校及び教員の初期対応の負担軽減を図る。

### 2. 教室の概要

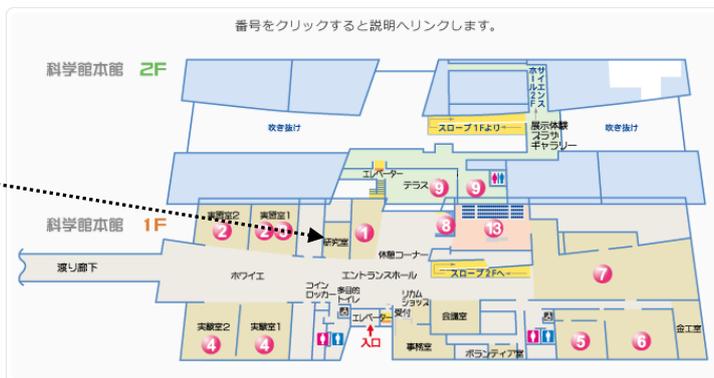
#### (1) 設置場所

出雲科学館内 1階 研究室 1

#### (2) 開設日

平成 3 1 年 4 月 1 5 日 (月) 予定

#### (3) 人員配置 (スタッフ) 及び業務内容



スタッフ	人数	主 な 業 務 内 容
室長 (学校教育課長兼務)	(1)	・ 教室責任者
指導員 (要 教員免許)	2 人	・ 日本の生活や学校の生活、日常生活における簡単な日本語でのコミュニケーションについて指導 ・ 対象者の在籍校との連絡調整 ・ 保護者への説明、相談等
指導補助員	1 人	・ 母語(ポルトガル語)による、生活・学習支援及び補助

#### (4) 教室入級以降の基本的な流れ

時期・期間	内 容	特記事項
<b>1 か月目</b> <b>初期集中指導教室</b> 【小・中各 1 クラス】 20 日間 (80 時数) (4h×20 日) ① 8:45~9:25 ② 9:35~10:15 ③ 10:25~11:05 ④ 11:15~11:55 11:55~下校	初期集中指導教室への入級手続 ・ 入級届の提出 (保護者・在籍校⇒市教委) 初期集中指導教室での指導開始 4/15~翌年 3/25 までの間、9 期の教室を開講。 (長期休業中等は除く。) ◇あいさつ、簡単なコミュニケーションなど ◇学校での学習ルールやマナー ◇簡単な読み書きやの計算など ◇学校や周辺施設の見学、利用 (社会見学) 初期集中指導教室における修了判定 ※判定結果によっては、再入級あり。	◇ <u>在籍校</u> 住所による指定校 ◇ <u>通学方法</u> 原則、保護者送迎 ◇ <u>教育課程</u> 「特別の教育課程」  ◇ <u>修了判定基準</u> 市の基準による。
<b>2 か月目以降</b> <b>在籍校</b>	在籍校での指導開始 ・ 「初期日本語指導 I」 からスタート	

### 3. 将来展望

将来的には、拠点中学校区 (3 エリア: 第二中・第三中・斐川西中) で実施する。

※ 効果について検証を行い、空き教室の状況等により、随時展開する。

4. 年間月別転入者数（平成30年2月～平成31年1月；1年間）

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	合計
小学校	2	6	3	8	5	0	5	4	2	3	2	0	40
中学校	1	1	4	2	1	1	5	1	2	0	0	2	20
計	3	7	7	10	6	1	10	5	4	3	2	2	60

5. 参考

出雲市における日本語指導について【平成30年度】

（平成31年2月1日現在）

1. 日本語指導が必要な児童・生徒の状況

学校名	人数(人)	ステージ 1・2(人)	母語別人数	指導者配置数(人) ※[ ]内は派遣		
				県加配教員	市日本語指導員	市巡回日本語指導員
今市小	3	0	ポルトガル語3人		1	
大津小	4	1	ポルトガル語2人 中国語1人 日本語1人		[1]	
塩冶小	55	20	ポルトガル語47人 日本語3人 ベンガル語1人 インドネシア語2人 タガログ語2人	5	5	1
神戸川小	2	2	ポルトガル語2人		[2]	
高松小	2	0	ポルトガル語2人		[1]	
四絡小	14	12	ポルトガル語13人 日本語1人	1	3	[1]
北陽小	2	0	ポルトガル語2人			[1]
平田小	1	1	中国語1人		[1]	
湖陵小	1	0	ポルトガル語1人		[1]	
西野小	2	0	日本語2人		[1]	
中部小	25	17	ポルトガル語25人	2	3	
出東小	1	0	フィリピン語1人		[1]	
荒木小	1	0	韓国語1人		[1]	
第一中	1	1	ポルトガル語1人		[2]	
第二中	32	17	ポルトガル語30人 タガログ語1人 中国語1人	3	3[1]	1
第三中	7	5	ポルトガル語6人 日本語1人	1	2	
向陽中	1	0	中国語1人		[1]	
斐川東中	3	0	ポルトガル語3人			[1]
斐川西中	8	5	ポルトガル語7人 タガログ語1人	1	1	
合計	165	81	ポルトガル語144人 日本語8人 フィリピン語2人 中国語5人 ベンガル語1人 タガログ語4人 インドネシア語2人	13	18	2

※日本語ステージ1：学校生活に必要な日本語の習得が始まる  
 2：支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む。  
 3：支援を得て、学級活動にも部分的にある程度参加できる。  
 4：学級活動にある程度参加できる。  
 5：授業にある程度の支援を得て参加できる。  
 6：積極的に授業に参加できる。

2. 日本語指導体制

職	所属校	人数	担当校
県加配教員	塩冶小	5	塩冶小
	四絡小	1	四絡小
	中部小	2	中部小
	第二中	3	第二中
	第三中	1	第三中
	斐川西中	1	斐川西中
市日本語指導員 (教員免許保有)	今市小	1	今市小・大津小・塩冶小
	塩冶小	5	塩冶小・神戸川小
	四絡小	3	四絡小・高松小・湖陵小・神戸川小 荒木小・塩冶小・第一中
	中部小	3	中部小・西野小・出東小・平田小
	第二中	3	第二中・第一中・向陽中
	第三中	2	第三中・第二中
市巡回日本語指導員 (教員免許保有)	塩冶小	1	塩冶小・四絡小・北陽小
	第二中	1	斐川東中・第二中

※市巡回指導員1名不足

3. 通訳・翻訳等の支援体制

市日本語指導補助員	塩冶小	2	
市通訳・翻訳支援員	第二中	1	
	塩冶小	1	

4. 日本語指導が必要な児童生徒数の推移

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
島根県	58	54	66	82	142	152	169	198
出雲市	24	23	27	52	95	111	117	165
県加配教員	3	3	3	4→5	5→7	8→9	10→11	11→13
市指導員	3	3	3	5→6	6	12	14	19→21

H31.1現在20人

※児童生徒数は「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（各年5/1現在）による

